

岩本万野の天狗岩

昭和六十年六月五日号



岩本の実相寺西側の道を登って行くと、家が五・六軒ある万野部落に着きます。万野部落の西側は絶壁で、その中腹に富士川へ突き出た大きな岩があります。里の人々は、その岩が天狗の顔のようなので「天狗岩」と呼び、天狗のすみかに違いな思っていました。

天狗に乗った漁師

ある日の夕方のことでした。一人の漁師が富士川で鮎をとっていると、漁師のなりをした天狗が現れて、「俺と相撲をとらないか」と言いました。漁師が無視していると、天狗は「漁は後で俺が手伝うから相撲をとろう」と

いいです。漁師は、断つわると怒おこるかもしれないと思ひ、河原で相撲をとりました。漁師に負けた天狗は、顔を真まつ赤あかにして「もう一度」と飛びかかつてきました。漁師は負けてやらないと幾いく度もかかつてくるに違ちがいがないと思ひ、威い勢せいよく投げつけられました。

喜よろこんだ天狗は漁師の手伝いをしましたが、さつぱり漁がありません。天狗は漁師をおぶい、目を閉ふじるよう命いのちじると、風を切きつて空を飛び、どこかの河原に着つきました。天狗は、たちまち鮎あゆをいつぱいととり、再び漁師を背せ中に乗のせると元のところへ帰かえつてきました。漁師が、鮎をとつた川を尋たずねると、「伊勢の鳥羽の川さ」と言いつたそうです。

子供のころ聞いたね

鈴木茂雄さん夫婦

万野の長老鈴木茂雄さんと奥さんは、「天狗岩の天狗は鼻を引っぱつて人を驚かすと聞いている。漁師の話は子供のころ聞いたよ」と語かたつてくれました。



天狗岩